

## Zone A 学校

### 子どもたちのコミュニティを支える教師のコミュニティ —次代の社会を担う人材育成を目指した新たな学校づくり—

これまで Zone A では、「子どもたちのコミュニティを支える教師のコミュニティ」というテーマのもと、学校における協働の在り方について議論を積み重ね、その重要性を様々な角度から確認してきました。現在、教育現場において教師集団がコミュニティとなって協働することの重要性は、「チーム学校」といった言葉に端的に見られるように、もはや周知のものとなっています。そして、協働的な実践を積み重ねてきた方々であれば、チームで取り組むことの確かな有効性や実り豊かな可能性を実感しているのではないのでしょうか。

しかし、たとえチームを組織したとしても、その活動が「これまでの学校」の枠組みを脱しないとするならば、次代の社会を生き、その社会を中心となって担っていくであろう子どもたちに資するものにはならないかもしれません。一方で、しばしば理念ばかりが先行し、意義は分かるが多忙な現実の中で具体的にはどうすれば良いのかと不安を抱いている方々が多いのも現実だと思えます。

こうした問題意識のもと、私たちは今回、「新たな学校づくり」というキーワードに着目することにしました。これからの社会を生きる子どもたちを支えるという視点から考えるならば、そこには、私たち教師の、あるいは学校の、さらには地域や社会全体の、そしてチームそのものとしての、学校という仕組みや組織の問い直しもまた同時に浮かび上がってくるからです。

そこで今回 Zone A では、「次代の社会を担う人材育成を目指した新たな学校づくり」というサブタイトルを掲げることにしました。ポスターセッションでは、このテーマに基づいた様々な取り組みを、ポスターを通して発表いただきます。続くシンポジウムでは、今、まさに、それぞれの地域や社会の要請を受け、新しい学校づくりに取り組んでおられる先生方をお呼びし、その実践についてお聞きします。さらに、最後のフォーラムでは、参加者の皆さんはどのように考えるのか、それぞれのお立場から語り合う時間を持ちたいと考えております。この3つのセッションを通し、これからの学校教育における教師コミュニティの可能性について、皆さんと深め合うことができると考えております。

Orientation 13:00-13:10 ガイダンス

Session I 13:10-14:10 ポスターセッション

Session II 14:20-15:50 シンポジウム

〈シンポジスト〉

福井県立坂井高等学校校長 吉田 繁 氏

長野県信濃町立信濃小中学校教諭・研究主任 結解 武宏 氏

〈コーディネータ〉 福井大学連合教職大学院准教授 中島 健

Session III 16:00-17:40 フォーラム

※Session II での話題提供を受け、小グループでの実践の交流を行います。

## Zone B 教師 「21世紀の教師教育をイノベーションする」

### B1 有識者会議の報告を受け教師教育はどこに向かうのか —教科の専門性と教員研修の明日を問う—

平成27年の中教審答申は、教員の資質・能力の向上を目指す制度改革について、教育委員会、学校、大学等が目標を共有して互いに連携しながら、次期学習指導要領等に向けて教員に求められる力を効果的に育成できるよう、教育委員会と大学等との協議の場の設置や教員に求められる能力を明確化する教員育成指標、それらを踏まえた研修計画の策定などを実施することとし、教員研修自体の在り方を、「アクティブ・ラーニング」の視点で見直すことなども提言しています。福井県と本学教職大学院は、この提言以前から教職員の基本研修や新任教頭研修などに協働で取り組んできましたが、昨年度より、これまでの教員研修を根本から見直し、福井県教育委員会が行ってきた基本研修と教職大学院が行ってきた教員免許状更新講習を一体化させるなど、新たな体系の構築に向けた取組を始めています。

こうした大学と自治体の連携の動きは、福井県だけでなく国内各地でも始まっていますが、昨年度のシンポジウムでは、連携を始めた国内各地の教職大学院と自治体の関係者から新しい教員研修体系構築の現状を報告していただき、その構築の在り方を検討し合いながら、今後の展望を探ってみました。

今年度は、現在、福井県教育委員会と福井大学連合教職大学院が協働しながら、実際にどのような教員研修を行い、今後どんな研修体系を構築しようとしているのか、それぞれの立場から、管理職研修や教員免許状更新講習、教員育成指標の導入も含めた生涯にわたる教員研修のカリキュラムなどについて報告します。それに対して、元長野県教育委員会教育長で文部科学省高等教育局大学改革推進室長や初等中等教育局財務課長を歴任された伊藤学司氏、文部科学省高等教育局大学振興課教員養成企画室長の高田行紀氏のお二人のコメンテーターに鋭い視点で切り込んでいただき、参加者の皆さんと、これからの教員研修のあり方を展望していきたいと考えています。

Orientation 13:00-13:10 ガイダンス

Session I 13:10-14:10 ポスターセッション

Session II 14:20-15:50 シンポジウム

〈シンポジスト〉 福井県教育総合研究所所長 牧野 行治氏  
福井県教育庁教育政策課課長 片柳 成彬氏  
福井大学連合教職大学院教授 淵本 幸嗣  
福井大学連合教職大学院准教授 小杉 真一郎

〈コメンテーター〉 公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会  
チーフ・フィナンシャル・オフィサー（兼）企画財務局長 伊藤 学司氏

文部科学省高等教育局大学振興課教員養成企画室室長 高田 行紀氏

〈コーディネーター〉 福井大学連合教職大学院教授 三田村 彰

## B2 これからの教員養成を学部・大学院を通して考える —実践を聴き、夢を語る—

教員養成をめぐる制度の見直しへの提起が重ねられ、とりわけ教職免許法の改正にともなうカリキュラムの改変が求められてきています。しかし、長い蓄積のなかで培われてきた組織の中で、新しい課題への取り組みを進めていくことには大きな困難がともないます。それぞれの実践や経験を活かした、当事者としての知恵が問われてきていると思います。

2月に開催されましたラウンドテーブルの【Zone B2】では、「これからの教員養成を学部・大学院を通して考える-実践を聴き、夢を語る-」が開催され、学部、大学院で教職課程や教員養成に関わる教員や学生、院生、さらには教員養成に関心のある中学・高校の先生も参加し、互いの取り組みを聴き合い、語り合うセッションが行なわれました。そこでは、武蔵野美術大学の学生を中心に話題提供をしていただき、そこから刺激を受けた教員のみならず、教員養成課程における学びの主体者である学部学生からも「教職への夢を語れる教員養成」を展開していくための多くのヒントが出されました。

今後福井大学での喫緊の課題でもある、学部と教職大学院の接続は、日本の教員養成の共通課題であり、そこで、学部段階における教員養成は、教職大学院への接続も想定しながら、その在り方を考えることが求められています。教職大学院では実践をベースとして、学校での長期のインターンシップを通して学校の総体を学び、現職院生とともに日々の実践を語り合い、省察することが学びの中心に据えられています。そうであるならば、その前段階である学部における教員養成が担う役割は何なのか？この「問い」は、今日教職大学院が全国的に拡がりを見せるなかで、全国の教育学部に共通する課題であるといえます。

さて、今回の6月23日（土）の【Zone B2】は教員と院生のみでの参加で、学部・大学院を通して、どのような教員養成・教師教育に取り組んでいるのかをじっくりと交流したいと考えています。教職大学院と既設大学院の合同も目前にしている現在、どのような議論が各大学でなされているのかについても考えてみたいと思います。以上、よろしくご協力をお願い致します。

今の段階で以下の大学の方々に呼びかけたいと考えています；

<連合教職大学院> 奈良女子大学 岐阜聖徳学園大学
---------------------------------

<他県> 信州大学 静岡大学 金沢大学 長崎大学ほか
----------------------------------

Orientation 13:00-13:10 ガイダンス

Session I 13:10-14:10 ポスターセッション

Session II 14:20-15:50

・話題提供テーマ：「対話」と「振り返り」の質を高める教師力とは？

\* 古屋和久先生（山梨県身延町立身延小学校教諭）×小林和雄先生（福井大学連合教職大学院准教授）からの実践報告：

・話題提供からの提案を受けて、感想・質問を自由に話し合います。（50分）。

Session III 16:00-17:40 グループディスカッション（1グループ4名）

- \*各大学・大学院における教員養成・教師教育のチャレンジの紹介と共有
- ・Session IIを受けて、教員それぞれが自身の学びを振り返ります。

## Zone C コミュニティ（会場：AOSSA（JR 福井駅東口））

### 持続可能なコミュニティをコーディネートする —つながりの編み直しを支える—

現在、急速な科学技術の高度化やグローバル化、少子高齢化が進む状況のなか、地域が直面する課題も複雑なものへと変化し続けています。言うまでもなく、地域とは共同的かつ長い時間をかけ歴史的・社会的に構築されてきたものです。この大きな変化の時代において、今後地域が萎縮・融解へと向かうのか、あるいは発展・保全へと向かうのか、現在私達はその岐路に立っているとと言えます。Zone Cでは後者を展望し、各地で取り組まれている事例から学び合っています。長い時間の見積もりを持った地道な実践の積み重ね、歩み、そしてその展開を地域・世代・領域を超え検討し、更にここ数年はコミュニティの発展における「持続性」に焦点を当て、互いの実践から学び合っています。

今回は、前回のテーマを引継ぎ「つながりの編み直し」を支えるコーディネートの可能性およびコーディネーターの力量形成に焦点を当てていきます。前回よりも、より領域や分野をまたぎながら、職場でどのように職員やスタッフの専門的力量的形成を支える学習のコーディネートが行なわれているのか、地域でどのように持続的なコミュニティをつくっていく長い視点を持った取り組みが行われているのか等を、長期的な実践から学び合っていきます。

地域のコーディネーター、学校関係者、医療・福祉関係者、地域・教育活動に取り組んでいる学生・大学院生、企業の方等をはじめ、あらゆる世代・領域の方々の参加をお待ちしています。

Orientation 13:00-13:10 オリエンテーション

Session I 13:10-14:10 ポスターセッション

Session II 14:20-15:50 シンポジウム

〈シンポジスト〉

社会福祉法人光道園理事 杉本 博 氏

福井市清水東公民館館長 鈴木 幹夫 氏

〈コメンテーター〉

早稲田大学文学学術院教授 村田 晶子 氏

福井大学連合教職大学院講師 隼瀬 悠里

Session III 16:00-17:40 フォーラム

Session IIでの話題提供を受け、小グループ（5～6人）で実践の交流を行います。

※福井の公民館主事、国際交流協会職員、福井大学探求ネットワークの学生、東京や岡山の社会教育関係者、企業の方、医療・福祉関係者等が参加予定です

## Zone D 授業研究

### 子どもと教師の学びを支えるために授業研究・保育研究をいかに組織するか ～子どもたちの探究的な学びを支える教師の協働探究～

いま、子どもたち自身が主体的に課題に向き合い、さまざまに対話を重ねながら探究し、学びを深めていく学習の在り方が求められています。そのためには、私たち自身の学習観を問い直し、専門職として協働して学び合いながら、授業や保育の質を高めていく授業研究・保育研究が重要となります。こうした背景のもと、ZoneDではこれまで、子どもと教師の学びを支えるための授業研究・保育研究について考えてきました。

「主体的で対話的な深い学び」と一口に言っても、それを実践するのは容易ではない現実もあると思います。道徳や英語など次々に様々な教育内容が新たに加えられていく中で、それらを別々にバラバラにこなすのではなく、場や時間をやりくりしながら紡ぎ合わせ、子どもにとって意味のある活動になるよう、工夫していくカリキュラム・マネジメントが求められてもいます。同時に、実践の場では、多様なニーズをもつ子どもたちを前に、寄り添いながら活動を進めていくことも必要です。

こうした問題を踏まえ、今回は、子ども一人ひとりの思いや考えを大事にしながら、探究的な学びが展開していくには、どのように授業研究・保育研究をしていったらいいのか、掘り下げて考えたいと思います。

「シンポジウム」では、探究的な学びに挑戦してきた実践の取組について、小学校からは管理職としていかにそれらをマネジメントしてきたか、中学校からは若手・中堅としていかに挑戦し協働してきたか、話題提供いただきます。また、アフリカ・マラウイから、福井で探究的な学習と授業研究を学んだメンバーと協働して、自国の現実の中でどのように進めつつあるか、話題提供いただきます。

シンポジウムでの、校種、世代、国境を越えた挑戦と問題提起を踏まえ、「フォーラム」では、参加者がそれぞれの現場で何ができるかを考えていくために、大まかに校種や領域で部屋を分かれます。それぞれの分科会で話題提供者から具体的な実践を簡単に紹介いただいた上で、小グループで話し合い、深めていきたいと思います。

Orientation 13:00-13:10 オリエンテーション

Session I 13:10-14:10 ポスターセッション

Session II 14:20-15:50 シンポジウム

「子どもたちの探究的な学びを支える教師の協働探究」

〈シンポジスト〉

福井市和田小学校教頭 塚本 康一氏

福井市美山中学校教諭 佐々木 庸介氏

マラウイ国教育省教員養成課 ジャスタス・ンカーター氏  
〈コーディネーター〉 福井大学連合教職大学院講師 高阪将人

SessionⅢ 16:00-17:40 フォーラム（実践紹介の後、小グループで話し合い深め合います。）

「多様な授業研究・保育研究から学び合う」

A 保幼小の実践に学び合う

奈良女子大学附属幼稚園教諭 松田 登紀氏

福井大学教育学部附属義務教育学校前期課程教諭 五十嵐 洋行氏

B 中高の実践に学び合う

福井市至民中学校教諭 中内 優子氏

福井県立大野高等学校教諭 佐藤 拓也氏

C 特別支援教育の実践に学び合う

福井市麻生津小学校教頭 坪川 修一郎氏